

#教育 #ICT 基盤

STORY 04 地域の全小中学生に1人1台の端末を。類例のない仕組みで実現した、教育 ICT 基盤の構築。

お客様を成功に導く懸け橋
BRIDGE FOR INNOVATION

背景

文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」により、児童・生徒1人1台の端末 & 高速大容量の通信ネットワークの整備が必要

お客様の課題

市内の全小中学校における端末の整備 & 教育 ICT 基盤の実現

富士フイルム BI ジャパンの解決策

iPad 端末、モバイルデバイス管理サービス、指定されたセキュリティ機器を連携させ、教育 ICT 基盤を構築

某市のお客様の喫緊の課題は、市内の全小中学校に端末を整備し、教育 ICT 基盤を構築すること。複雑な通信機器の導入により、最適解の探索に試行錯誤した末、全33校に約4000台のiPad 端末を整備し、インターネット環境と無線機器の設置による教育 ICT 基盤の構築。を短納期で実現した。

MEMBER



SYSTEM ENGINEER
2006年入社



SOLUTION SALES
1999年入社

託されたミッションは、地域の教育 ICT 基盤を構築すること。

2019年12月、文部科学省は子どもたち一人ひとりに最適化された創造性を育む教育を実現するべく「GIGA スクール構想」をスタートさせた。全国の児童・生徒に1人1台のコンピュータと、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、令和時代における学校の新スタンダードを作り上げるという壮大な構想である。この構想が公表されると同時に営業は直ちに行動を起こし、某県内の全市町村にコンタクトを取り、担当者へ

のヒアリングを行った。そんな折、某市の教育委員会から「大規模に端末を整備したことがなく、そのノウハウもない。どうすればいいのか分からず困っている」という相談が寄せられ、今回の案件がスタートするに至った。

この自治体には小中学校全33校があり、子どもたち1人1台のコンピューター整備のため、計4000台程が必要になる。しかし、端末を配るだけでなく、各小中学校における無線環境、安全なインターネット環境を構築するためには、様々な課題があった。第一に、現行の内部ネットワークではインターネットが高速接続に対応できない状況だった。また、既存のネットワーク機器への設定変更も必要だった。「実際に動作を確認し検証してみなければ分からない部分も多くありましたが、地域の様々な方々にご協力いただきながら、課題解決策を探っていきました」と SE は話す。

スムーズ&緊密な2つの連携体制により、ICT 基盤の構築を短納期で実現。

営業は、この案件を万全の体制で進めていくため

に、市や教育委員会との綿密な話し合いを重ねていた。端末については、半導体不足による影響が顕在化し始めていた頃だったが、営業によるメーカーへの働きかけによって、必要な台数を確保することができた。しかし、メーカーからの出荷時期において不透明な状況が続き、端末やネットワーク整備に必要な機器が揃った頃には既に納期が迫っており、現場での実質的な作業に充てられる期間は極めて短かった。最優先で行われたのは、ソフトウェアのインストールなどの初期設定を行うキッティングの作業だった。「キッティングは一度に数台であれば問題なく行えるのですが、100台を超えると各種通信機器の調整などが必要になるので、SE としての技術力を総動員して対応しました。また、約4000台もの端末があると少なからず初期不良が発生しますが、その都度対応を行っているネットワークの整備が追いつかなくなります。話し合った結果、こちらの対応は営業に担ってもらい、SE は技術面に専念するという分業体制で進めていきました。

SE が、協力ベンダーとの技術的な打ち合わせを重ね、設計・構築を主導する一方、営業はフロントに立ち、スケジュール調整など、学校や業者との調整のほか、納品物の搬送などを担った。今回、市内の全小中学校における端末の整備、インターネット環境と無線機器の設置による ICT 基盤の構築を短納期で実現することができた背景には、揺るぎない営業と SE のチームワークがあった。

最大の挑戦は、「最適解のない構成」の着地点を見出すこと。

今回、ICT 基盤を構築するにあたって、SE が最も苦心したのは「最適解のない構成」をいかにして作り上げるかだった。ミッションは、各学校に導入するセキュリティ機器の仕様に沿った形で、約4000台のiPad 端末とモバイルデバイス管理サービスを連携させていくことであった。しかし、今回指定されたセキュリティ機器は特殊な仕様であったため、思うように連携させることが出来ず、

試行錯誤の日々が続いた。「学校によっても環境は異なり動作も違ってくるため、協力ベンダーとやり取りしながら解決策を見出していきました。iPad 端末には、コンテンツフィルタを導入しセキュリティを担保しましたが、学年によって端末の使用時間の制限に微差があることや各学校での運用が異なる点も考慮した上で、セキュリティ環境を構築しました」。

案件を進める中、不測の事態も起きた。各学校で動作確認を行う段階で、電気通信事業の都合により、一部の学校で光回線の工事が滞ってしまったのである。一時的に別回線を経由するなどして対処したが、その検証は通信機器の特殊性も相まって、難易度が高かったという。「ご尽力をいただいたおかげで、地域の子どもたちに必要な教育 ICT 基盤を速やかに作り上げることができた。多大なるご支援を賜り、厚く感謝申し上げます」と喜びの声を頂戴した時の達成感はひとしおだった。

お客様との関係性の深化から広がる、多様な展開

市内の全小中学校には、教育 ICT 基盤と iPad 端末が予定通りに整備された。「導入から約1年が経ちましたが、市や教育委員会の方々と継続的にやり取りする中で、クレームや大きなトラブルは一切起きておらず、ご満足いただけているようです。端末に関しては、各学校側の万全な管理体制のもと非常に大切に扱っていただいているとお見受けしています」と営業は話す。今回の案件実績が高く評価され、現在は様々な追加案件が発生しており、従来、地元業者が優先されたパソコンやソフトウェアなど物品の購入時においても、声が掛かるようになった。「お客様との関係性が強化されたことで、私共からのご提案も、より円滑に行えるようになりました。小中学校の学習環境のさらなる向上・改善はもちろんのこと、様々な業務領域で貢献できるよう、今後もチーム一丸となって鋭意努力してまいります」。